



『当日胃カメラ前診察枠』 のご紹介

消化器内科部長 大内 佐智子

胃がんのリスク分類について、ご存知でしょうか？

ヘリコバクターピロリ(HP)感染と胃の粘膜の萎縮を示すペプシノーゲン値を掛け合わせて4層に分けると、各層での胃がんの発生頻度が大きく異なります。つまり長期にわたるHP感染により胃の粘膜の萎縮が進むと発がんのリスクが大きくなり、ABC検診として胃がん検診にも利用されています。

実際、HP感染と胃がんの関連についての報告も増えてきており、日本人の死因の大部分を占めるがんの中でも、胃がんは予防可能ながんであると考えられてきています。そのような中で、胃がんのリスクの高い萎縮性胃炎については、精密な内視鏡検査が求められます。

食道がんについても、リスクの高い背景が明確になってきており、特に50歳以上の男性で喫煙歴があり、1日に1.5合以上の飲酒歴を持つフラッシャーの方はハイリスク群といわれています。

当院ではそのようなリスクの高い方については精密な内視鏡検査を行い、早期がんの発見を心がけています。

近隣の先生方から胃がんのリスクの高い萎縮性胃炎の患者様や食道がんのリスクの高い患者様をはじめ、単なる症状精査の方まで、胃カメラ検査のみのご依頼をお受けするために、『当日胃カメラ前診察枠』という名称の外来枠を設定しました。外来診察と同日に胃カメラ検査を受けていただけるように、患者様の利便性を考えました。利便性のみを優先することで逆に患者様にご迷惑をおかけすることになってはいけませんので、確実な診断、患者様への説明(最終結果の説明)、検査の安全性については簡略化することなく丁寧にしたいと思います。

患者様の状態を把握するために事前に多くの情報をいただいたり、当日、胃カメラ検査前に他の検査に回っていただいたり、検査後の説明を受けていただくためにお待ちいただいたり、長時間病院に拘束されることがあるかもしれませんが、この『当日胃カメラ前診察枠』をご利用いただき、消化器がんの早期発見に少しでも貢献できることを祈っています。

